

就活生に聞いた「ブラック企業/ホワイト企業」への考え

2019年3月発行

深刻な人手不足による売り手市場が続く中、少しでも学生に関心を持ってもらおうと自社の「働きやすさ」を押し出す企業が増えている。

一方で、大学生の就職先選びの視点も働きやすさを意識したものへと変化している。労働環境に敏感と言われる若い世代が、就職活動を進める上で「ブラック企業」あるいは「ホワイト企業」をどう捉えているのか。

本調査では、就職活動を終え今春の入社を控えた大学4年生と、就職活動を始めたばかりの大学3年生それぞれに、「ブラック企業」と「ホワイト企業」についての考えを尋ねた。

《調査概要》

■2019年卒者

調査対象：2019年3月に卒業予定の大学4年生（理系は大学院修士課程2年生含む）

回答者数：750人（文系男子221人、文系女子220人、理系男子200人、理系女子109人）

サンプリング：キャリアス就活2019学生モニター

■2020年卒者

調査対象：2020年3月に卒業予定の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）

回答者数：750人（文系男子285人、文系女子192人、理系男子193人、理系女子80人）

サンプリング：キャリアス就活2020学生モニター

調査期間：2019年2月8日～14日

調査方法：インターネット調査法

[1] 「ブラック企業」「ホワイト企業」への意識

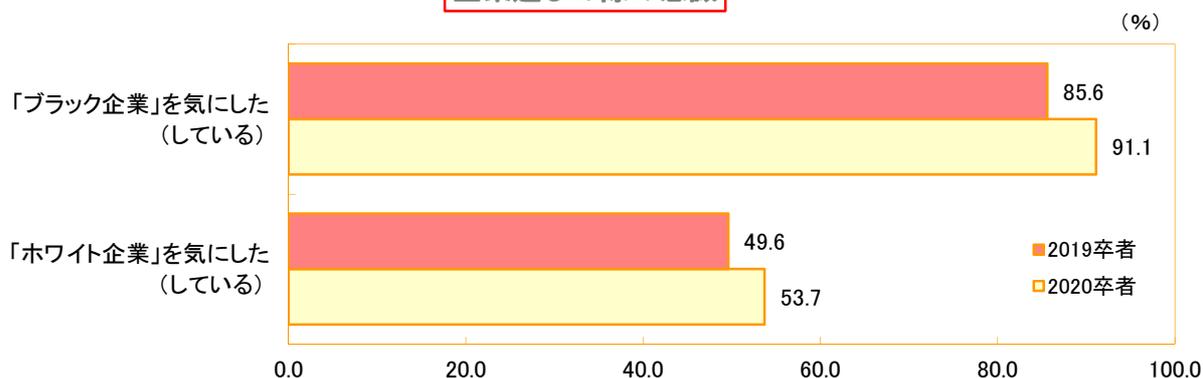
就職活動の企業選びで、ブラック企業やホワイト企業を意識する学生の割合を調査した。

まず「ブラック企業を気にする」という学生は、就職活動を終えた2019年卒者で85.6%、現在就活中の2020年卒者では9割以上（91.1%）に上る。

「ホワイト企業」についてはそれぞれ半数程度だった。

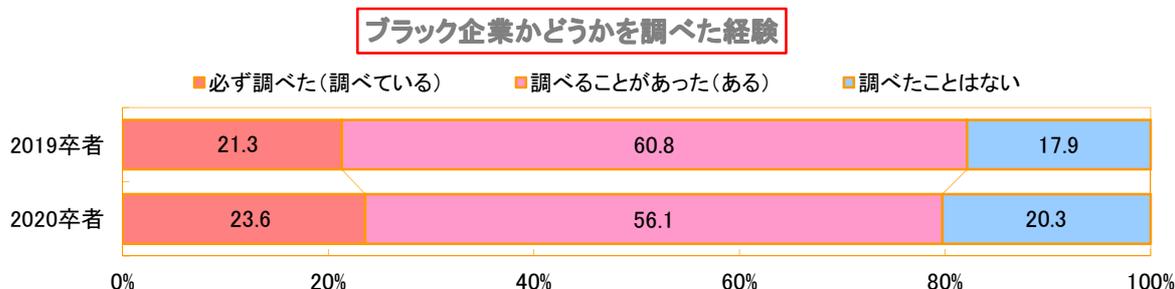
「ブラック企業」を警戒しながら就活を進める学生の姿が浮かび上がる。

企業選びの際の意識

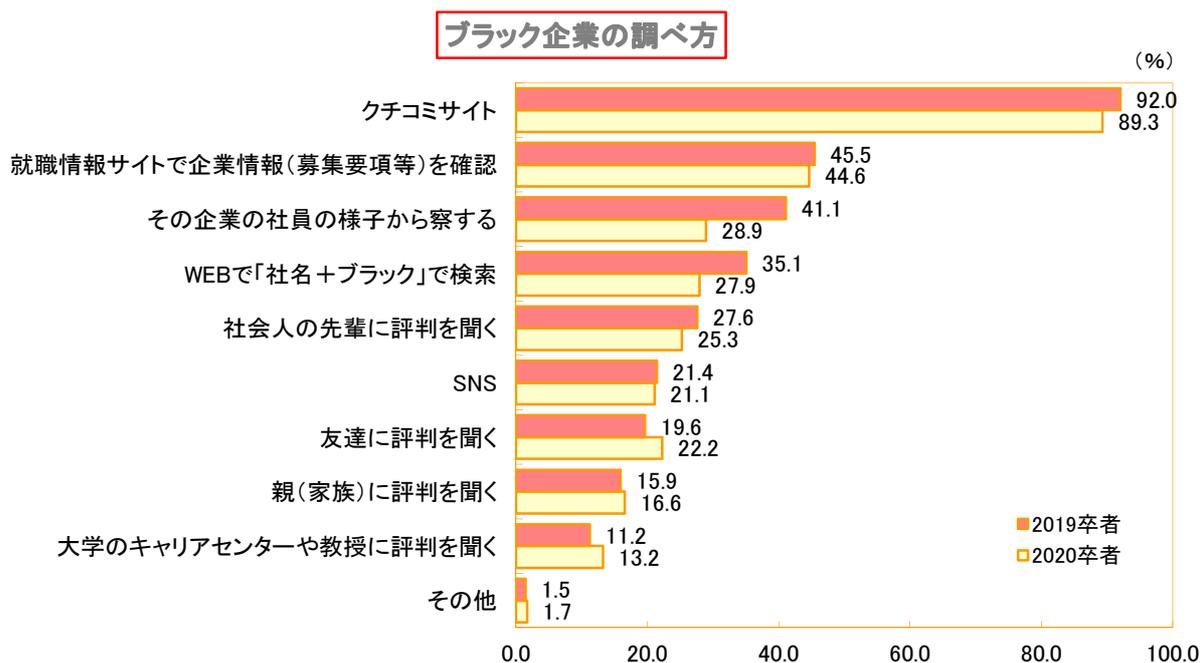


【2】 「ブラック企業」の調べ方

就職活動で「ブラック企業かどうか」を調べた経験を持つ学生は約 8 割（19 年卒で計 82.1%、20 年卒で計 79.7%）。20 年卒は「必ず調べている」の割合が 23.6%で 19 年卒（21.3%）より多く、ブラック企業への警戒感の強さが感じ取れる。また、20 年卒は「調べたことはない」という回答が 2 割あるが（20.3%）、今後就職活動が本格化するにつれ、ブラック企業かどうかを調べる学生は増えていくと見られる。



調べ方で最も多いのは「クチコミサイト」で、約 9 割に上る（19 年卒 92.0%、20 年卒 89.3%）。次いで「就職情報サイトで企業情報を確認」が続く。就職活動を終えた 19 年卒は「社員の様子から察する」が 4 割超で 3 位だった（41.1%）。



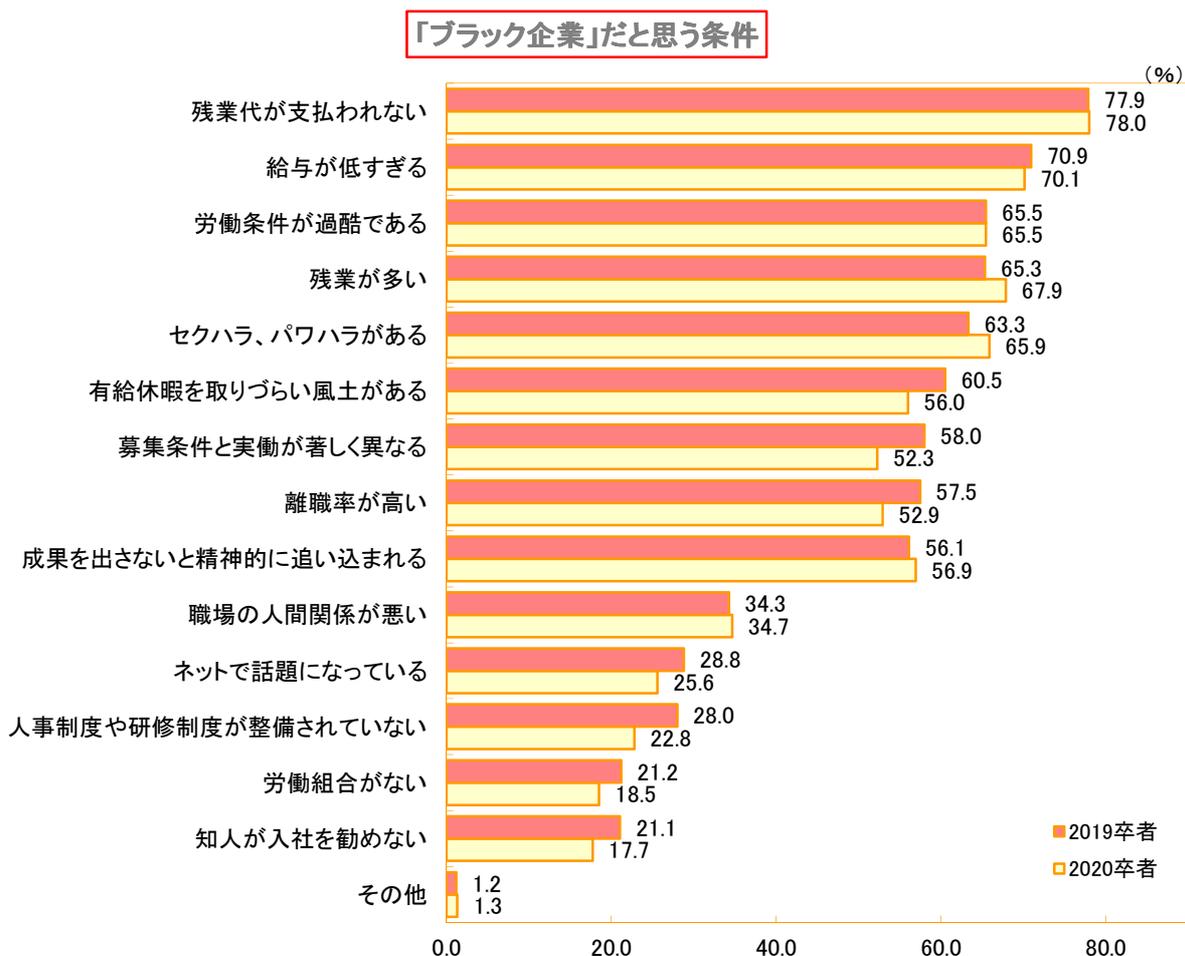
■参考になった情報や調べ方

- クチコミサイトは「ブラック企業」かどうかを判断するうえで非常に役に立った。社員や元社員の実際の声が反映されているため、それを見ることで残業時間や不満点がよくわかる。 <19 卒>
- 検索エンジンに「社名+スペース」を入力して一覧を確認し、よく検索されている情報を参考にした。 <19 卒>
- OBOG 訪問の時に際どい質問をするのが一番。普段の帰宅時間や残業時間、有休取得についてなど。 <19 卒>
- インターネット上の不確かな情報だけでなく会社四季報や有価証券報告書記載の従業員平均年齢など信頼できる情報を集めた。 <19 卒>
- 実際にインターンに行って新人や若手の方に話をきく。人間なので言いにくいことは顔に少し出る。 <20 卒>
- ブラック企業大賞にノミネートされていないか、ネットで調べる。 <20 卒>

【3】 「ブラック企業」だと思ふ条件

「ブラック企業」だと思ふ項目をすべて選んでもらった。最多は「残業代が支払われない」で8割近くが選択した（19年卒で77.9%、20年卒で78.0%）。これに「給与が低すぎる」が続き、報酬に対してシビアに考えている様子が見えてくる。

働き方改革で注目される労働時間に関しては「残業が多い」がそれぞれ6割強、「有給休暇を取りづらい風土がある」が6割前後と多い。また、「セクハラ、パワハラがある」がともに6割を超えており、ハラスメントに対する問題意識も高いことがわかる。



■ブラック企業への考え

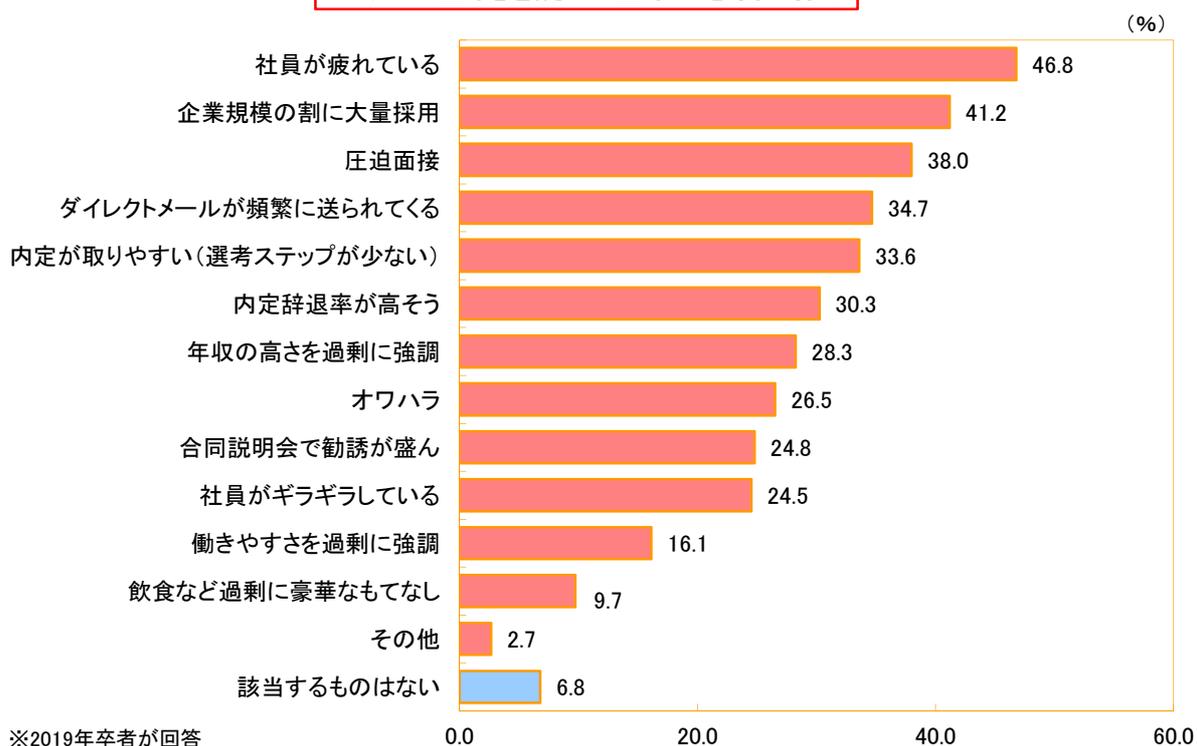
- 単に労働時間が長いだけでなく、給与が低かったりやりがいのない仕事だと、ブラック企業だと思う。<19卒>
- 何を持ってブラック企業とするかは人それぞれです。ただ、法律に違反している環境は、必ず正すべきだと思います（残業代未払いなど）。<19卒>
- ブラック企業と言われるのは「聞いていた話と違う」ということの積み重ねだと思う。結局悪評につながるならば、企業ははじめから情報を正しく開示すべき。<19卒>
- 入らないとわからないので、自分の会社がそうだったらどうしようという不安は少しあります。<19卒>
- パワハラ、セクハラが横行している会社は、尊敬できる上司がいないと思う。絶対に就職したくない。<20卒>
- ブラック企業とわかっていても、社内では言い出せない雰囲気があるんじゃないかと思う。<20卒>
- 法に触れているわけではなく、ただマッチングがうまくいかず精神的に追い詰められる場合もあると思う。だからこそ自分に合った働き方ができるのか、しっかりと見極める必要があるのではないかと思います。<20卒>

【4】 就職活動で「ブラック企業」を疑った企業の態度や様子

就職活動を終えた19年卒者に、就職活動（企業の採用活動）を通じて、どんな態度や様子の企業を「ブラック企業ではないか」と感じたかを尋ねた。

最も多かったのは「社員が疲れている」で46.8%。「社員がギラギラしている」(24.5%)の2倍近くに上った。2番目に多いのは「企業規模の割に大量採用」で41.2%。早期離職者が多いのではと疑念を持つようだ。次いで多いのは「圧迫面接」(38.0%)。面接での態度は社風にも通じると判断しているのだろう。直に接点を持つ採用担当者や社員の態度を、その企業の「社風」と捉える傾向が読み取れる。

「ブラック企業」を疑った企業の態度や様子

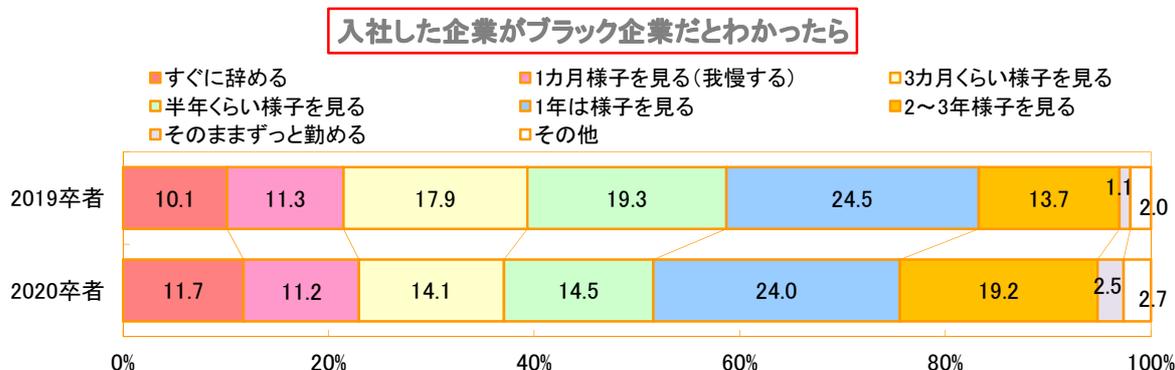


■具体的なエピソード

- 大学内の合同説明会に来ていた社員さんが、「仕事が大変で疲れている」と実感を込めて言っており、恐ろしくなった。 <19卒>
- 人事以外の人と社内ですれ違い挨拶したが、疲れた表情でスルーされた。 <19卒>
- 社員の方がギラギラしていて、「仕事が楽しいから自分の時間がなくても充実している」と言っていた。私はたとえ仕事が楽しくても自由時間は絶対に欲しいため、少し怖かった。 <19卒>
- 仕事のよいところについての話が非常に曖昧。無理矢理作った感じがある。 <19卒>
- 圧迫面接があると、その企業は入社してから大変そうだった。 <19卒>
- 大手企業にもかかわらず、採用業務を実質1人で回していると言われた時に、おかしいと感じた。 <19卒>
- その企業の総従業員数と採用人数がほとんど変わらない数だったところはブラックそうだなと感じた。 <19卒>
- 実力主義や成果主義などを過剰に押してくると、ブラックなのかと疑う。 <19卒>
- 「会社説明会に参加するだけで内定がもらえる」というメールが繰り返し送られてきたときは、ブラック企業を通り越して怪しさを感じた。 <19卒>
- 面接に行くと、理由を告げられないまま20分以上待たされ、隣の部屋から物凄い怒声が聞こえてきました。また何度も「オワハラ」をされ、ここはこういう企業なのだと感じました。後ほど辞退しました。 <19卒>

【5】 入社後にブラック企業だとわかったら

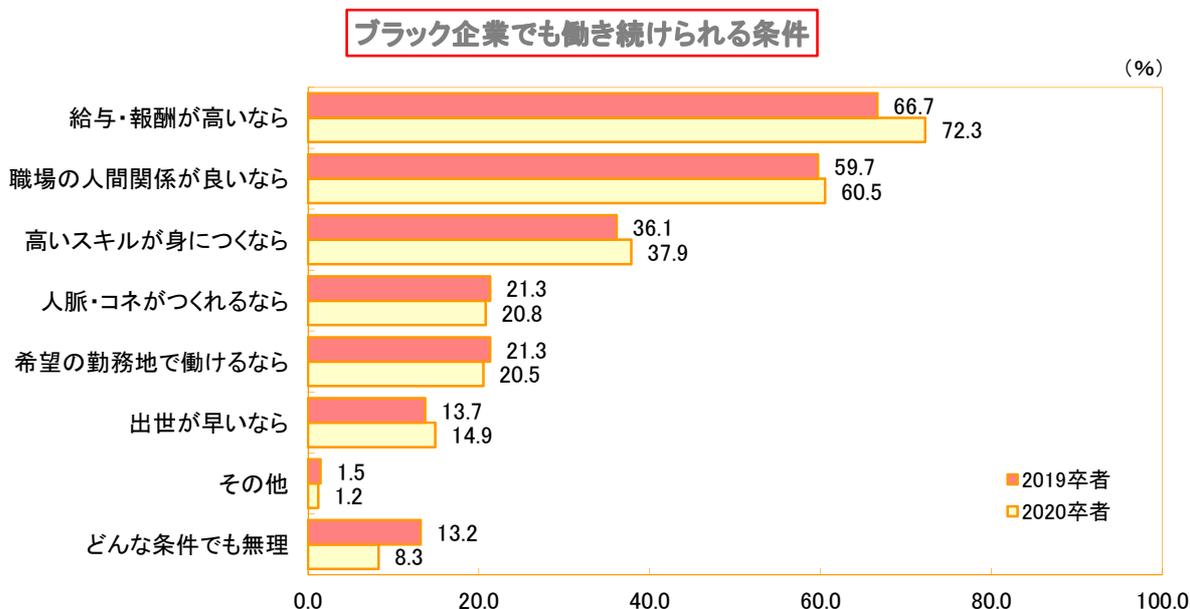
もし入社した企業がブラック企業だとわかった場合に、どうすると思うかを尋ねてみた。19年卒・20年卒ともに最多は「1年は様子を見る（我慢する）」でおよそ4人に1人の割合。「すぐに辞める」は1割程度だったが、半年以内に見切りをつけるという回答を合わせると、それぞれ過半数に達した（19年卒は計58.7%、20年卒は計51.6%）。



では、どんな条件ならブラック企業でも働き続けられると思うかを尋ねてみた。19年卒・20年卒とも最多は「給与・報酬が高い」で7割前後が挙げた。きつてもお金をたくさんもらえるなら我慢できているようだ。「ブラック企業だと思う条件」(3ページ)にも通ずるところがある。

次いで「職場の人間関係が良い」が続く。働き続けるのに大切な要素と捉えていることが読み取れる。「高いスキルが身につく」が3番目に多いが、これは高スキルを武器により条件のよい企業に転職しようということだろう。

一方で、「どんな条件でも無理」が19年卒で13.2%、20年卒で8.3%おり、上記の「ブラック企業だとわかったらすぐに辞める」に繋がっていくのだろう。

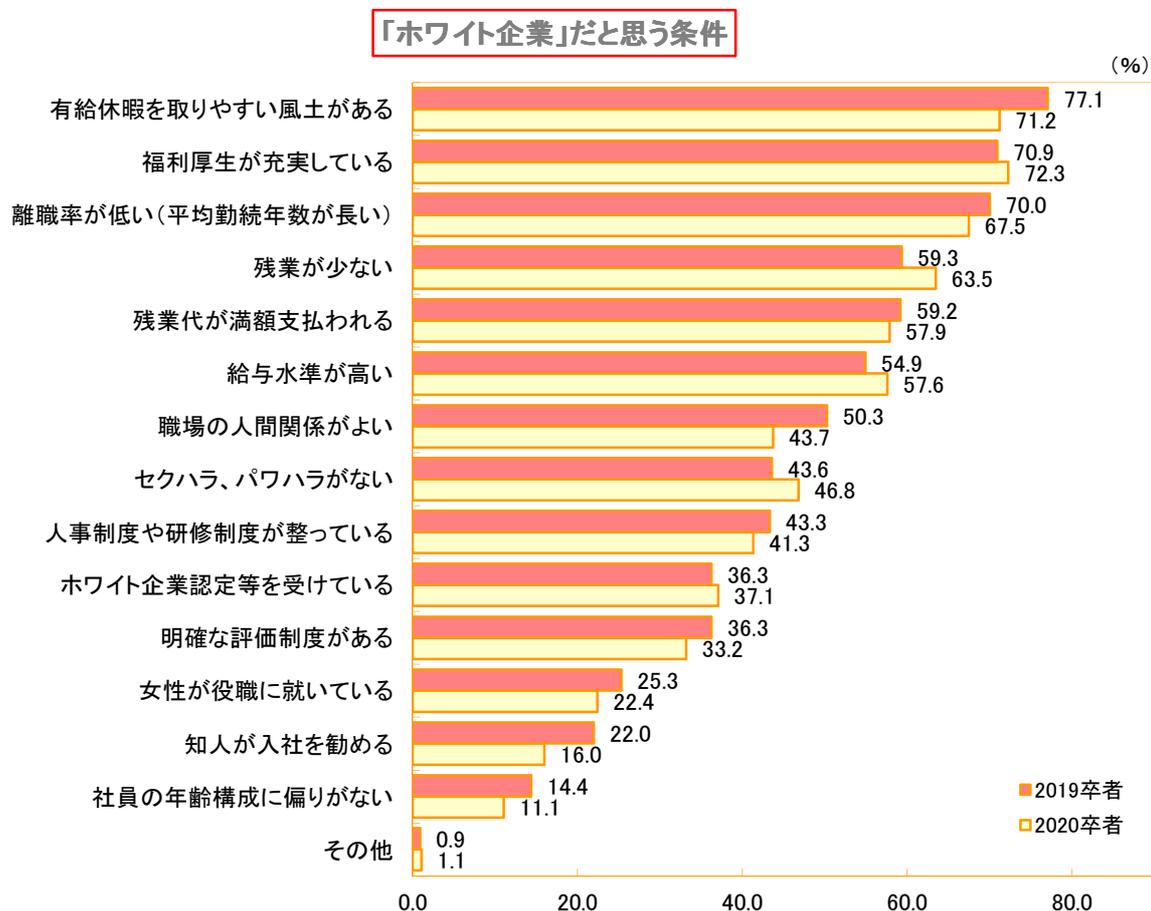
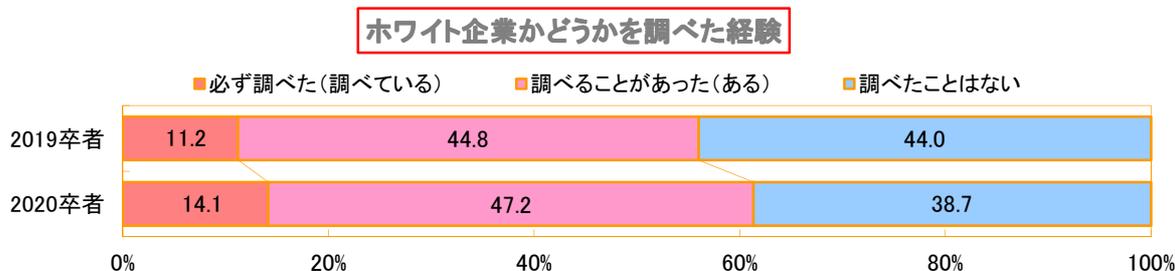


- 労働条件が過酷であっても、それに見合った給与が支払われているのであれば、私はいいと思います。 <19卒>
- どんな理由であれ、労働者を使い倒そうという魂胆が見え見えの会社には勤めたくない。 <19卒>
- いざ自分がブラック企業に入ったら何だかんだでなかなか抜けられなさそうで怖い。 <19卒>
- 年収がとて高ければ、身体を壊す前(新卒1~3年くらい?)に辞める前提で入社しても良いと思う。 <20卒>

【6】 「ホワイト企業」だと思ふ条件

ホワイト企業を気にする学生は半数程度だったが（1 ページ）、「ホワイト企業かどうか」を調べた経験を持つのは、19 年卒で計 56.0%、20 年卒では計 61.3%に上る。

ホワイトの条件の TOP3 は「有給休暇を取りやすい風土がある」「福利厚生が充実している」「離職率が低い」。ブラック企業の条件では「残業代が支払われない」「給与が低すぎる」が上位項目だったが、ホワイト企業の条件では、「働きやすく、長く続けられるか」により注目する傾向が読み取れる。



■ホワイト企業への考え

- 女性はもちろん、男性にも優しい支援が整っていることがホワイト企業だと認識する理由の1つだと思う。例えば、「プラチナくるみん」認定をもらっている企業はホワイトだという印象が強くなるし安心できる。 <19 卒>
- ホワイト企業といっても、法令遵守とか、そもそも当たり前のことをしているだけのところも多いと思う。それをホワイト企業と自負されると違和感を覚える。 <19 卒>
- 少し忙しくてもお金を稼ぎたいので、ホワイトにこだわりすぎて、残業が少なすぎて稼げないのもどうなのかと思っています。 <20 卒>
- ブラック企業は避けたいと思っても、ホワイト企業だから入りたいというのは特にない。 <20 卒>